

平成27年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 新南小学校
校長氏名	桂 木 道 雄
作成日	平成 28年 3月 1日

1 教育目標

豊かな心を持ち、主体的に生きる子どもを育成する

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力	体力の向上
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を積極的に発信する。 ・保護者や、地域の方に行事等への参加を呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育・人権教育の充実を核にして、豊かな感受性と社会性を備えた人間の育成をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の確実な定着をめざすとともに、授業の工夫改善と学習意欲の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に親しむ資質や能力の基礎を育て、健康の保持増進と体力向上を図る。
取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便り、HPを通して、積極的に情報を発信する。 ・子ども達が地域に出たり、地域の方が子どもの学習に関わったりする機会を設ける。 ・交流給食や感謝の集会を通して、児童の安全を見守ってくれる方々に感謝の気持ちを表す。 ・運動会、集会、人権教育講演会等、地域の方に参加を呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉読書や「うちどく」の取り組みを通して、豊かな感性を育てていく。 ・「あいさつ」「そうじ」の徹底をめざして、強化期間や重点指導期間を設ける。 ・「心があたたかくなることばの勉強」を通して人権意識を育てる。 ・障がいをもつ児童への理解と支援のあり方について、校内の研修を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科で一人一授業を実践し、研究発表会を開催する。 ・漢字検定や計算の反復練習を取り入れ、基礎学力の定着をはかる。 ・各教科で言語活動を効果的に取り入れ、コミュニケーション能力の向上を図る。 ・学習規律の向上と家庭学習の充実につとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科の単元学習を通して、授業の工夫改善を図る。 ・体育カード・上達カードを利用して学習の意欲を引き出す。 ・水泳や持久走の指導を集中的に実施し、体力の向上を図る。
(評価結果【C】)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより・HP等で学校教育に関わる情報を積極的に発信することができた。 ・見守り隊(各種団体・老人会)の方々に招待して交流給食を実施し、1年は生活科「手作りおもちゃで遊ぼう」3年生は社会科「昔のくらし」の聞き取り学習をした。5年生の家庭科では婦人会の方数名にミシンの学習をサポートしていただいた。12月には下校見守り隊・老人会・交通指導員・婦人会の方々に招待して、感謝状やプレゼントを贈呈し、歌や劇の出しものを披露した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「心があたたかくなることば」の学習を継続して取り組んだ。学期毎にテーマを設定し、各学級で実践し、交流し合った。 ・生活指導面での具体的な実践目標として、1学期は「あいさつ」2学期は「そうじ」に重点を置き、全職員が共通意識をもって、取り組んだ。「あいさつ」は児童会の「あいさつ運動」と連携させ、子ども達も意識してできるようになった。 ・アンケートで92.7%の児童が「学校が楽しい」と答えてくれた。子どもたちに充実感・満足感を感じさせる学校・学級づくりの取り組みが一定の評価を得られたと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一研究授業を実践することによって、教員の授業力の向上につなげることができた。 ・国語科で言語活動の充実を図り、生きてはたらく言語力の育成につなげることができた。 ・「ひるどく」や「よみきかせ」「うちどく」等で、児童の読書意欲の向上を図るとともに、児童が気軽に本を手にする環境を整えることができた。 ・漢字検定の実施が定着し、子どもが意欲をもって、練習する姿勢が見られるようになってきた。 ・校内俳句コンクールの実施を通して、ことばを大切にする姿勢と、短詩型での表現力が身についてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マラソン大会にむけて大休憩の「ニコニコジョギング」や体育の時間での持久力向上を図ることができた。 ・泳げない子の指導を3年生までに対象を下げ、夏休みに集中して指導を行ったので、泳力が格段に伸びた。 ・「なわとび検定」や「なわとび集会」を通して、児童がなわとび運動に親しみ、より難しい技に挑戦する意欲も育てることができた。 ・体育の授業の改善を図るために、時間割編成を工夫し、単元学習を組みやすくした。
改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流は今後も続けていくとともに、児童が地域へ出て行く機会も増やしたい。そのために児童の活動に関わってくれる地域の人材探しにも力を入れていく。 ・HPの充実を図り、学校の取り組みを詳しく紹介できたが、より多くの保護者に発信できるよう働きかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつのできる子」「そうじをがんばれる子」の徹底をめざして、強化期間や重点指導期間を設けて力を入れていく。 ・道徳や人権教育の充実を図り、相手の気持ちや立場を考えてコミュニケーションをとれる児童の育成をめざす。 ・異年齢集団の活動を通して、縦のつながりを大切にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動のさらなる充実を通して、生きてはたらく言語力の育成を図り、児童のコミュニケーション能力を高めるよう取り組む。 ・児童の読書意欲の向上に向けて「うちどく」「ひるどく」の取り組みを継続しつつ、図書室の利用率の向上や、蔵書数の増加、環境整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割編成を工夫して、単元学習をすすめることによって、さまざまな運動にふれさせる。 ・ジョギング、なわとびはじめ総合的な身体能力の向上をめざして、全校で取り組んでいく。 ・体育学習の充実を図り、児童が意欲的に運動に親しむための指導のあり方について研修を深めていく。

3 その他の課題